

シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策 (6)

—モンクロシャチホコ—

富山県林業技術センター林業試験場
中山間地域資源課長 西村 正史

庭木や街路樹として植栽されているサクラの葉がほとんど食べ尽くされる被害が夏から秋にかけて観察されます。これは、前回紹介したアメリカシロヒトリの2回目の食害による被害か、あるいは今回紹介するモンクロシャチホコの食害による被害か、どちらかです。しかし、運が悪いと、両方の食害を受ける場合もあります。

いつ頃発生するか

1年に1回発生する害虫で、成虫は本県では6～7月頃に発生しているようです。成虫は梢の枝先の葉裏に100～300粒程度卵を塊として産み付けます。ふ化した幼虫はその周辺の葉を集団で食害します(写真-1)。大きくなると分散して食害するようになります。葉を食い尽くすと下方の葉へと移動しますので、枝の先端から葉が無くなって行くという特徴があります(写真-2)。また、異常発生した場合には地面にたくさんの糞が落下しますので、雨等で糞が溶けるとブドウを潰したような赤紫色になるという特徴もあります。

若い幼虫は赤褐色ですが(写真-1)、老熟幼虫になると、紫黒色となり(写真-3)、体には黄白色の長い毛が生えてきます。この虫は危険を感じると頭部と尾部を持ち上げて、威嚇姿勢をとります。この形が舟のような形に見えるので、フナガタムシとかシリアゲムシとも呼ばれています。

秋になると地上に降りて浅い土中にマユをつくり、その中で蛹となり、越冬します。

どのような樹木を加害するか

サクラ、ウメ、リンゴなどのバラ科の樹木を加害しますが、主にサクラに異常発生することが多いようです。

どのようにして防除をするか

出来るだけ、農薬を使わないで防除することを心がけましょう。そのためには、この虫の生態を良く理解することが大切です。ふ化したばかりの幼虫は枝の先端部を集団で食害してい

ますので(写真-2)、下から見て先端部がほとんど無くなっている状態の枝があれば、その直下の葉を食害していますので、その部分を含めて被害を受けた枝を高枝バサミで切り取って足で踏みつぶしましょう。

この時期を逃すと幼虫の食欲は旺盛になりますので、農薬の助けを借りる必要があります。サクラ類を対象として、オルトラン水和剤(1000～1500倍)、ジェイエース水和剤(1000～1500倍)があります。また、樹種は樹木で害虫はケムシとして、トレボン乳剤(4000倍)、デミリン水和剤(4000～8000倍)があります。

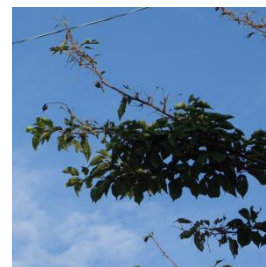


写真-1 集団で食害しているふ化直後の幼虫



写真-3 老熟幼虫